

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者ひとりひとりが、「役割」、「生きがい」を持って「自分らしく」暮らすことを支援することを理念に掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた個別の介護計画を作成している。	○ 理念を共有化するための職場内研修を継続的に実施していく予定である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	基本理念ボードを利用者と共に作成し、各棟の食堂に掲げている。また、パンフレット・ホームページに基本理念を掲載すると共に、地域の回覧板・地元紙・市の広報誌に事業所情報を掲載し周知を図っている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域行事(運動会・ゴミ収集等)に参加している。また、外部からの見学がある際は、利用居室のネームプレートを外す等、プライバシーに配慮している。近隣の小学生が遊びに来て、利用者と触れ合う機会も時々ある。地域の小学生(小3・18名)との交流も実施した。	○ 今後も、より多くの地域の方に理解してもらえようような取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、外部評価を実施することで、業務等の見直しや改善することができ、利用者により良いサービスを提供することができるものと考えている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営会議を開催し、事業所情報等の報告を行っている。また、意見交換することでサービス内容に反映させ、質の向上に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者個々の状況に応じて、家族関係・金銭面等に関し、市長村担当者に相談・報告をしアドバイスを受ける等、密に連携を取っている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の制度についての理解は不足していると思われる。	○ 全職員が制度について理解するように、勉強会の開催や研修会への参加を積極的に進めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の制度についての理解は不足していると思われる。事業所においては、身体的虐待以外にもネグレクト等精神的な部分について十分注意を払い対応している。	○ 全職員が制度について理解するように、勉強会の開催や研修会への参加を積極的に進めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に、事業所の方針、理念について詳しく説明をし、同意を得た上で手続きを行っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決規程に従い、苦情解決受付担当者を中心として、利用者・家族からの苦情等に対応している。また、申し出があった場合は、対応・結果等について納得してもらえようように説明を行っている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している広報誌に、個々の生活の様子等の近況報告を記載している。また、定期受診以外の受診等に関して、その都度家族に報告している。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決第三者委員を地域の民生委員の方をお願いしている。運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、意見交換を行っている。また、家族懇談会を開催し、家族の意見を伺い運営に反映させている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善プロジェクトと称し、職員の意見を反映させる機会を作っている。また、定期的にミーティングを行い、意見交換を行っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態・活動時間に合わせ、勤務時間の設定、調整、変更を行っている。また、職員の急な休みに対応できる勤務体制を考慮して勤務動態を作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置替えは、最小限に留めている。担当が変更する場合は、引継書を作成し、利用者状況、情報を確実に引き継いでいる。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験等に合わせた研修に参加させ、復命報告書を作成し回覧することで、全職員に確認してもらっている。また、OJTを実施し質の向上に努めている。	○	外部研修への参加、OJTの実践を積極的に取り組んでいきたい。また、研修参加者が全職員に対し、報告・伝達をすることで全体のサービス向上に繋げていきたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催されている地域のケアマネの会に参加し、勉強をすると共に地域の他事業者との交流を図っている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩室を設け、業務から離れ休息できるようにしている。また、年間を通し職員の親睦会を開催している。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度を導入し、勤務実績等が反映される体制を整備している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談があった場合、利用者の生活暦等を含め話を聞くように努めている。利用後も、本人の生活状態の把握に努め、家族・本人からの希望や不安等について話を聞く機会を設けている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせて、他サービスや他施設への利用についての相談を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の面談で、事業所の様子や雰囲気を伝え不安な気持ちを和らげてもらえるように努めている。また、利用前に見学等を行ってもらっている。利用後は、他利用者との関係作りがスムーズにいくように支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	新聞の読み聞かせや、音楽鑑賞等を一緒に楽しめる機会を作っている。また、調理方法について相談したり、実際に一緒に下拵えをしてもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、家族と積極的に話をするように心がけている。その際に、日々の様子について伝達している。また、医療面等状態の変化がみられた場合は、どんな些細なことでも家族に報告している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、本人の家族に対する思いや生活状況を細かに伝えている。行事に家族を招いたり、広報誌で日常生活の様子を伝える等、家族との関係が途切れないように支援している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院等や入居前からのかかりつけ医を継続して利用し、馴染みの場所との関わりを大切にしている。また、知人や友人が気軽に遊びに来ることもある。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、知り得た情報は全職員が共有するようにしている。利用者間のトラブルが発生した際には、職員が間に入り大きな問題に発展しないように配慮している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了の手続きを行う際、本人・家族に対して今後も相談や出来ることは協力することを伝え、関係を断ち切らないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中や日々利用者と接していく中で、思いや意向を把握していくように努めている。困難な場合は、家族からの情報を元に本人の思いを推測するようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や担当のケアマネジャーから情報を得ている。生活歴については、プライバシーに配慮した上で家族や利用者との信頼関係が築かれた後に詳細について聞き取りを行うようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の過ごし方や心身状況については、センター方式ケアマネジメントを取り入れ、把握に努めている。また、個々の心身状況に応じて1日2回のバイタル測定を行う等の対応をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、十分なアセスメント（センター方式）を行い、家族や本人の意向を取り入れた上で、職員間でも情報を出し合いながら作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に6ヶ月毎に立案し、3ヶ月の時点で見直し（評価）をしている。また、毎月実施効果について評価を行っている。但し、期間中に状態やニーズに変更があれば、家族と話し合い本人の同意の下で、計画を変更し対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の援助の記録については、個別のノートや介護日誌に記入して全職員で情報を共有している。介護計画に沿ったチェック表を個別に作成し、確実に実施できているか確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。 (神社への参拝、買物、外食等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員をはじめ、地域の方々には、徘徊する可能性がある利用者がいることについて説明をした上で、理解と協力をお願いしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の意向や必要性に応じて、他のサービスを申し込む支援等も行っている。 (市の高齢者福祉事業の利用等)		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまでは、地域包括支援センターとの関わりを必要とした事例はないが、いつでも相談できる環境は整っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続したいとの希望があれば、意向に沿うように支援している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医（精神科・心療内科等）と密に連絡を取り、受診時には生活状況を報告すると共に、相談できる関係ができています。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置（兼務）しており、日常の健康相談や緊急時の対応、受診等の関わりを行っています。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、定期的に面会に行き状態の把握に努めている。また、入院後1ヶ月を目処に病院関係者家族との話し合いを行うようにしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向を尊重し、事業所で可能な限りの援助を行う方針である。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を尊重し、事業所で可能な限りの援助を行う方針である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までは、このような事例はないが、今後有り得るものとして、家族及び本人に関わる関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っていききたい。	○	今後、家族及び本人に関わる関係者間で十分な話し合いや情報交換を行っていききたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した対応をするように職員一人ひとりが意識して接している。(職員会議等でも都度確認している)不適切な言動があった場合には、職員間で注意し合っている。	○	今後も定期的に確認していく必要があると考えている。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の思いや希望を言い易いように、日頃から信頼関係作りに努めている。また、思いを伝えることが困難な方の場合、職員が具体的な事例を上げて選択してもらうように支援している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている、すぐに希望に沿えない場合は、理由を伝えていつでもあればできるのかを具体的に伝えるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容院については、入所時に馴染みの店を確認し、継続して利用できるように支援している。衣類等の購入希望があれば、付き添いをし購入している。また、化粧をする機会を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	<p>個別に嗜好調査を行い、それを参考にして代替食の提供を行っている。調理時には、利用者と一緒に下拵えを行い、食材の買物にも一緒に出かけたりもしている。食事は、職員と一緒に食べている。</p>		
52	<p>喫煙・飲酒等は、主治医に相談した上で本数や量を決めている。喫煙については、他利用者への配慮から、喫煙場所を決めている。</p>		
53	<p>おむつを使用している利用者についても、個人のペースに合わせ、トイレ誘導を行い排泄の自立に向けた取り組みを行っている。</p>		
54	<p>週4回程度の入浴となるが、希望があればそれ以外でも入浴できるように支援している。入浴時間についても、可能な限り本人の希望に沿えるようにしている。</p>		
55	<p>疲労感が認められる時は、休息してもらうように支援をしている。但し、昼夜逆転から不穏状態になることもあるため、日中はできるだけ活動的に過ごしてもらうように働きかけを行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>一人ひとりの生活暦や日々の関わり合いから、楽しみや生きがいについて発見できるように努めている。ドライブ、散策、裁縫等、本人の楽しみを介護計画の中に取り入れて支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には所持してもらい、買物や受診時等に支払いできるようにしている。自己管理できない方については、毎月小遣いを準備し、嗜好品等の購入ができるように支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望する場所へ外出する機会を設けている。急な申し出であっても、出来る限り対応できるように支援している。また、行事として個人外出を行い個別に希望する場所への外出を行っている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者に希望を取り、外出行事を企画している。個別の希望については、個人外出として対応している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは、希望があれば都度対応している。手紙については、やり取りができるように支援を行っており、時には職員が代筆を行うこともある。年賀状や暑中見舞いを出すよう支援しているが、その場合はなるべく直筆で書いてもらうにしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	7時～21時の面会時間を設定しているが、家族等の事情や希望に応じて柔軟な対応をしている。面会者には笑顔での明るい挨拶を忘れないように心がけ、帰る際には玄関まで見送るようにしている。また、面会場所についても配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として、身体拘束は行わない方針である。拘束をしないで安全を確保する方法について職員間で都度検討している。やむを得ず拘束を行う場合は、家族に説明し同意を得、期間を決めて解決策を検討する体制を整えてある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は、職員が施錠することはない。玄関についても、夜間（21時～5時）以外施錠はしていない。利用者が玄関から出たことがわかるように、センサーを設置し、鈴を取り付けている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、各フロアに居ながら見守りをしている。職員が台所にいながらも見守りを行えるようにテーブルの配置を工夫し、状態に合わせて都度変更している。夜間は、定時の巡回や離床センサーを使用して安全確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等の調理器具は、見えない場所に保管し、夜間は保管場所に施錠している。また、爪切りや裁縫道具等については、管理できる方は自己管理してもらい、利用者の状態や生活スタイルに合わせている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、ヒヤリハットメモや事故報告書を作成し、それをもとに毎月の職員会議で防止対策、再発防止策についての話し合いを行っている。利用者の状態を把握し、その都度防止策を考え取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置のマニュアルを作成し、全職員に配布して徹底を図っている。また、AEDを設置し、救急救命法、心肺蘇生法、AEDの使用方法についての講習を全職員が受講した。	○	講習会や勉強会を定期的に行い、緊急時の対応が速やかにできるようにしていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を、日中・夜間それぞれの時間帯の災害を想定し、定期的実施している。また、災害時に備え、食糧や飲料水等を備蓄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化や受診後の報告等、その都度家族に伝えている。また、起こり得るリスクについても家族に説明を行い、場合によっては一緒に対応策について話し合いを行っている。リスクを伴うこともあるが、本人の意向を捉え、抑圧感のない本人らしい生活が送れるように心掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕の申し送りや記録等で情報を共有する他、職員間でも常に情報交換し対応している。毎朝のバイタル測定で、異常があれば速やかに受診するようにしている。また、1日2回のバイタル測定を行い、健康状態の把握と異変の早期発見に努めている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬剤情報の一覧表を作成し、常に確認できるようにしている。内服薬が変更になった場合は、注意点も含め周知徹底に努めている。服薬により状態に変化が見られた場合は、主治医に伝え指示を仰いでいる。都度、家族にも状態報告を行っている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックをして確認している。全員に朝食時に牛乳を飲用してもらっているが、便秘ぎみの方については、ヨーグルト等の乳製品を摂取してもらうようにしている。それでも改善されない場合は、主治医に相談し対応している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きを行っており、利用者の状態に合わせて、声掛け・見守り・介助を行っている。また、義歯に不具合が生じた時は、その都度歯科受診を行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量が不足とならないように利用者一人ひとりの摂取状態を観察している。必要に応じてチェック表に記入し、摂取状態・量の把握に努めている。また、嗜好に合わない物に対しては、代替食を提供する等の工夫をしている。咀嚼や嚥下に合わせた食事形態にすることで確実に摂取してもらうように努めている。	○	管理栄養士に、定期的に献立を確認してもらい、栄養バランス等の指導・助言を受けている。また、定期的に嗜好調査を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	各感染症毎の対応マニュアルを作成し、全職員に配布し徹底を図っている。インフルエンザについては、利用者・職員全員が予防接種を受けている。また、感染予防策として加湿器の設置、外出後のうがい・手洗いの実施、温度・湿度管理等を行っている。また、玄関にマスク、手指消毒剤を常備し、面会者への協力をお願いしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾に煮沸消毒、調理器具の洗浄・消毒に努めている。調理器具使用前には、除菌スプレーを噴霧し、食中毒予防に努めている。また、週1回冷蔵庫内の清掃・消毒を行い、食品の賞味期限等を確認している。食材は、毎日購入し新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設事業所と区別するため、それぞれに案内板を設置している。また、玄関周辺にはプランターを置き親しめる雰囲気作りに努めている。	○	敷地内に花や野菜を植えており、地域の方にも親しんでもらえるようにしている。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節の花や観葉植物を飾るようにしている。装飾品や掲示物は、季節感を出すように心掛けており、利用者と共に作成している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂には、ソファを置き、気の合う利用者同士が談笑する場所として利用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や馴染みの生活用品、 家族の写真等を持ち込んでもらい、居心地良く過 ごしてもらえるように心掛け、家族にも協力して もらっている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	午前・午後に居室、食堂の温度・湿度をチェッ クし、換気を行い、アルコール製剤を噴霧して いる。冬期間は、床暖房を利用することから、特 に温度・湿度管理を徹底し調整を図っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等の各要所に手摺を設 置し、安心して生活ができるように配慮 している。ベッドや家具の配置は、利用 者が使い易く動き易いように配置して いる。また、家族と相談し変更する こともある。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	利用者に合わせ、居室・トイレに目印 になるものを取り付けて場所の認知を 図っている。また、余暇活動で作成 した作品を自室に飾るようにしてい る。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動 できるように活かしている	利用者が会話を楽しみ、くつろげる ように配慮をしている。また、敷地 内に花や野菜を植え、観賞のみなら ず、収穫の楽しみや活動的に過 ごせるように努めている。	○	外に、ガーデニングテーブル等 を設置し、くつろげるスペースを 確保していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お風呂は温泉であり、地域柄、温泉に慣れ親しんだ利用者も多数おり、満足して頂いている。
利用者の外出希望には、柔軟に対応しており、可能な限り意向を叶えられるように努めている。